

Osaka Metro 安全管理の方法

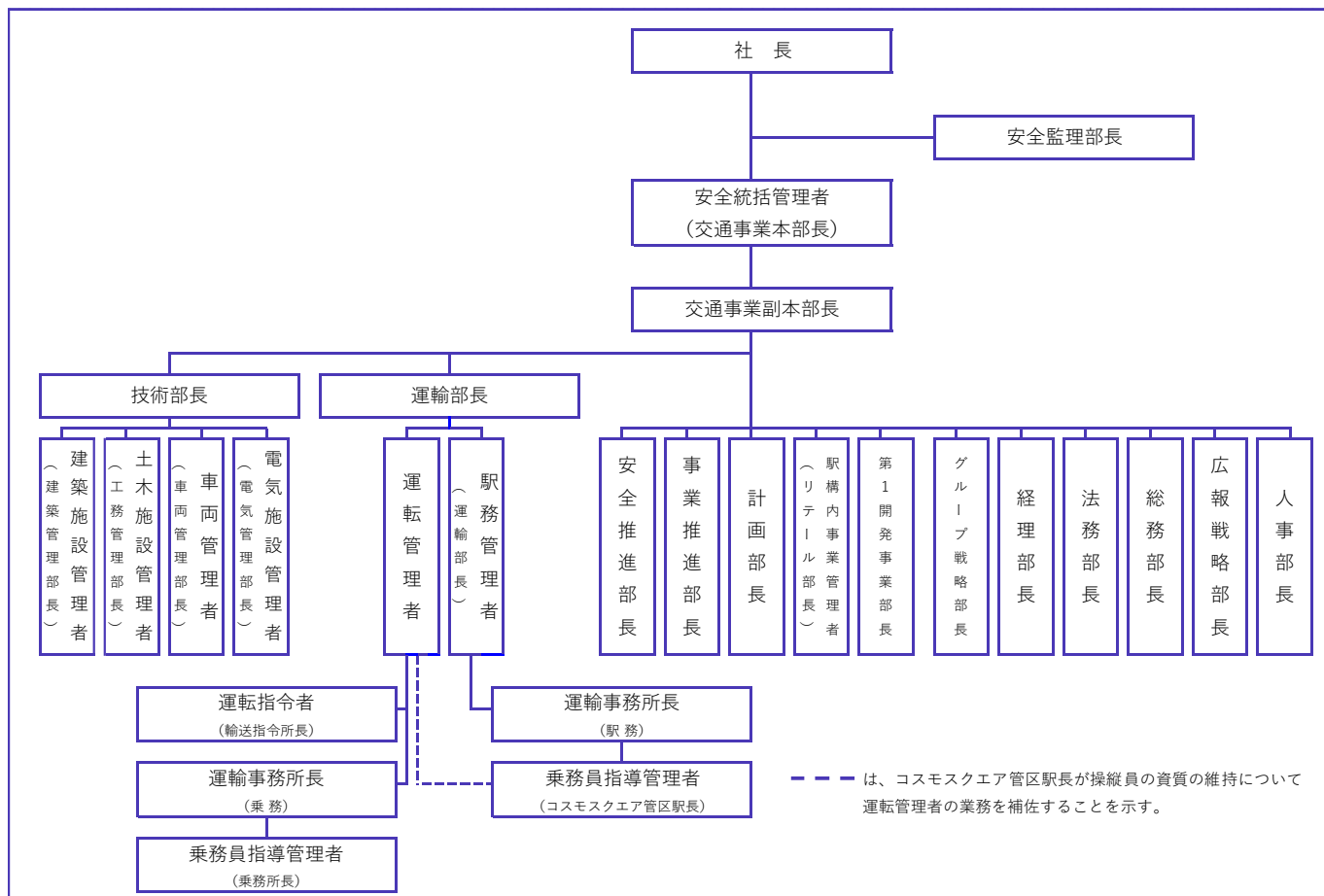
Osaka Metroでは、安全管理体制のもと目標を定め、安全の強化に努めています。

◎安全管理体制

組織体制

輸送の安全を確保して事業を実施するため、「安全管理規程」を作成し、各管理者の責務を明確にした体制を定めています。

安全管理体制図



主な管理者とその責務

社 長

輸送の安全を確保するため、鉄軌道事業の実施及び管理の状況を適確に把握し、必要に応じ改善を行うなど輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う。

安全統括管理者

鉄軌道施設、車両及び運転取扱いの安全性並びにそれら相互間の整合性を確保するとともに、安全確保を最優先とする輸送業務の実施及び各管理部門を統括管理する。

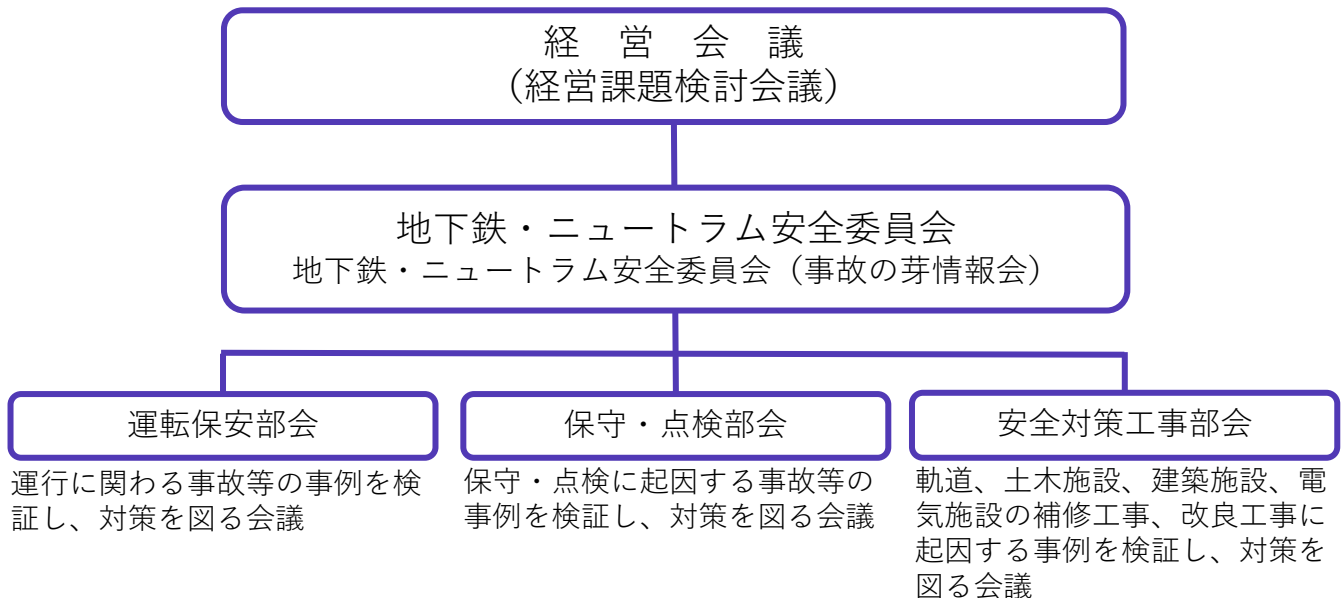
運転管理者

運転関係の係員及び鉄軌道施設、車両を総合的に活用し、安全輸送を確保するため、運行計画の設定及び改定、乗務員の運用、列車運行の管理、乗務員の育成及び資質の維持、その他運転に関する業務を行う責務を有する。

乗務員指導管理者

乗務員等の資質（適性、知識及び技能）の維持管理並びに乗務員等の資質の充足状況に関する定期的な確認及び運転管理者への報告を行う責務を有する。

◎安全に関する会議の体制



◎地下鉄・ニュートラム安全委員会

地下鉄・ニュートラム安全委員会

安全で安定した輸送を提供するために欠くことのできない安全管理体制の構築と改善を図るため、安全統括管理者をはじめとする各管理者及び責任者によって構成する「地下鉄・ニュートラム安全委員会」を1年間に5回開催しています。

地下鉄・ニュートラム安全委員会 (事故の芽情報会)

事故または事故の恐れがある事態、もしくは輸送の安全確保に影響を与える情報を早期に共有し、これらの情報を分析、整理して再発防止及び未然防止の検討を行うことを目的とした「事故の芽情報会」を毎月1回開催しています。

専門部会 (運転保安部会、保守・点検部会、安全対策工事部会)

安全委員会にて更なる議論が必要と認めた事象について、背景要因の深掘り、原因の究明、再発防止対策を講じるための専門的な部会で、2021年度には、梅田駅構内にて発生させた『ホーム端部接触事象』に対する「安全対策工事部会」、乗務員の運転取扱い誤りにより頻発した『信号冒進』(停止信号を行き過ぎた事象)に対する「運転保安部会」と、それぞれの専門部会を立ち上げ対策を講じました。



地下鉄・ニュートラム安全委員会

◎経営トップコミットメント

年度当初の経営会議において、前年度の運輸安全内部監査の結果や安全重点施策・行動目標の達成状況等を基に、経営トップが安全管理体制の現状を認識し、継続的な改善のための基本的な方針として、経営トップコミットメントを通知し、年度の取り組みとして実施しています。

《2022年度の取り組み方針》

安全管理体制の構築・改善に向けた大きなテーマとして、「組織能力の強化」を昨年度に引き続きかけ、安全統括管理者の指揮のもと輸送の安全確保に取り組まれない。

① 現場と本社の一休感の醸成

- ・「安全方針」にある『安全はすべてに優先する』という強い決意を、現場と本社が一休感をもって共有できる取り組みを実施すること。
- ・「現場のやらされ感」を払しょくするため、実施している事故、トラブルに対する対策について、その本質的な意義をあらゆる機会をとらえて再確認し、必要に応じ現場と本社が連携して見直しを行うこと。

② 風通しの良い職場づくり

- ・「心理的安全性」を基本とした「イキイキした活気ある職場づくり」を目指して、上司部下の良質なコミュニケーションを推進する取り組みを実施すること。
- ・社員が情報を抱え込む、共有を拒むといったことのないよう、バッドニュースの連携を含め管理職が率先して部内の環境づくりに取り組むこと。
- ・縦割り組織を超えた安全性向上施策に取り組むこと。
- ・コーポレート部門においては、上記の取り組みが推進できるよう、全社的な環境整備に鋭意取り組むこと。

③ 強い使命感と適切な緊張感の持続

- ・鉄道事業の根幹である「運転の安全の確保に関する規則」及び「安全方針」について、「方針の形骸化」になっていないかの再確認を行うなど、あらためて全社員がその重要性を認識する取り組みを実施すること。
- ・部課長をはじめとする管理職は、部の業務に関する目的や意義を全社員と共有できる取り組みを実施し、社員がその意識のもと能動的に取り組める環境を構築すること。
- ・コーポレート部門においては、鉄道会社の社員であることの自覚と安全最優先の意識をさらに社員に浸透させる取り組みを実施すること。

④ 安全への取り組みの社内外へのアピール

- ・安全性の維持・向上に関する取り組みの発信強化に取り組むこと。
- ・現場社員等の活動の社内外への積極的な発信に取り組むこと。

⑤ ヒューマンエラー及びトラブルの防止

- ・平時（日常）より、行動の先にはお客さまがいるとの意識を強く持ち、基本の徹底遂行に取り組むこと。
- ・ヒューマンエラーを責めるのではなく、要因を幅広く分析し、現状で問題なくても常に改善・進化に取り組むこと。

⑥ 人材育成

- ・現在行っている研修の目的や意義を再確認するとともに、それを踏まえた研修体系の整理・強化を行い、個人個人の更なるスキルアップに取り組むこと。
- ・輸送の生命館での安全研修を含む各研修の拡充に取り組むこと。
- ・災害発生を想定したシミュレーション訓練の充実に取り組むこと。

⑦ 適切な安全投資の実施

- ・安全設備への支出について、交通事業本部として適切な経営判断を行えるよう、高い精度での執行管理を行うとともに、事業進捗の管理強化に取り組むこと。
- ・必要などころに確実に投資を行い、鉄道システム全体として「より良いもの」にすることを旨とし、施設設計のあり方、積算精度の向上、契約の見直し等について知恵を出し合い、投資計画の見直し改善に取り組むこと。

◎安全重点施策・行動目標の策定

経営トップコミットメントに基づき、各管理者及び責任者が、前年度に実施した安全に関する取り組みを振り返ることにより、新たな安全重点施策・行動目標・安全設備への支出計画を策定し、安全の確保に取り組んでいます。

なお、これらの施策等は地下鉄・ニュートラム安全委員会にて、その進捗状況を四半期毎に評価し、必要な見直し・改善を継続的に行うことにより、お客さまに安心してご利用いただける地下鉄・ニュートラムを目指しています。

管理者等が策定した2022年度安全重点施策や行動目標の取り組み項目(抜粋)

駅務管理者 ○係長級スキルアップに関する取り組みの実施 ○駅扱い担当者の資質の維持・管理 ○レジリエンス・シミュレーション訓練の実施 等
運転管理者 ○信号冒進事象における対策の実施 ○運輸部（運転）自主監査の強化 等
電気施設管理者 ○労働災害やヒューマンエラーを発生させないために、組織で取り組む ○設備部門の統合によるシナジー効果の創出と安全管理体制の再構築のために、各種業務の整理と統合を行う 等
車両管理者 ○信号冒進事案を踏まえた安全意識向上の強化 ○昨年度発生したヒューマンエラーおよび労働災害を踏まえた取り組みの強化 ○将来に渡る最適な検修体制の構築（技術継承・人材育成） 等
土木施設管理者 ○本社部課長と現場社員との懇談会 ○自ら学ぶ仕組みの活用 等
建築施設管理者 ○技術継承につながる研修を継続的に行い技術力向上を図る ○業務の目的や意義及び安全に関する知見・知識の共有を図る 組織の強化を目指し、本社、現場とのコミュニケーションをとり、仕事の意義や目的を共有する 等
安全推進部長 ○部間連携による安全性向上策策定 ○小田急・京王線事象を踏まえた対応 ○輸送の生命館研修の充実 等

安全設備への支出計画（運輸部・技術部・計画部）の項目（抜粋）

駅務管理者 ○防犯カメラ設置	土木施設管理者 ○地震等災害対策 ○地下構造物補修 等
運転管理者 ○堺筋線既存ITVカメラとモニタの更新 ○機械錠設置 等	建築施設管理者 ○可動式ホーム柵設置に伴う床改修 ○浸水対策工事 等
電気施設管理者 ○信号保安設備更新工事 ○サービス情報表示装置設置工事 等	計画部長 ○可動式ホーム柵
車両管理者 ○車両更新 ○防犯カメラの導入 等	

◎運輸安全内部監査の実施

運輸安全内部監査は、安全管理体制が適切に機能していることを確認し、これによりOsaka Metroの輸送の安全が適切に確保できているかを客観的に評価することを目的に、経営トップである社長や安全統括管理者を始め、各部に対して実施しています。

【各部への監査事項】

監査対象部門における安全管理体制に関する取組みについて、

- ・関係法令及び安全管理文書に適合しているか確認すること
- ・実施体制・手順等が確立され、P D C Aサイクルが適切に機能しているか確認すること
- ・安全管理体制上、どのような効果を出しているか確認すること

また、内部監査において、

- ・把握した不具合等について、監査対象部門と一致協力して改善に向けた取組みを進めること
- ・把握した優良事例について、社内に周知・奨励すること

2021年度は以下の項目を重点監査事項と定めて実施し、さらなる改善に向けた取組みを進めました。

【社長及び安全統括管理者への監査】

■安全管理体制構築に係る取組みの確認、次年度の方針の確認

- ・安全の取組みについての評価と現状の課題について確認するとともに、2022年度の安全の取組みの方針を確認

【各部への監査】

■自主監査活動の有効性の確認

- ・各部で実施している自主監査活動について、安全管理体制の維持・向上に寄与するものとなっているかを確認

■事故・トラブル防止の取組みの有効性の確認

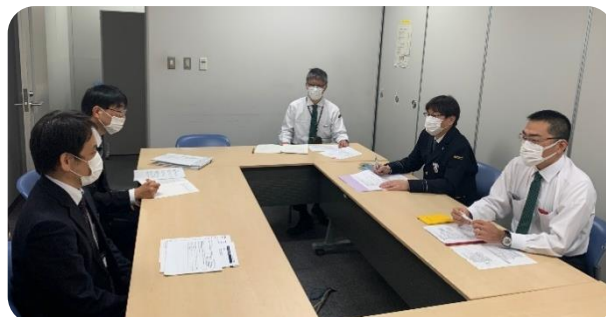
- ・根本原因を究明した上で再発防止策が講じられているかを確認

■安全投資の見直しによる安全性の検証

- ・事業計画の見直し等によるリスクとその対応の明確化が図られているかを確認



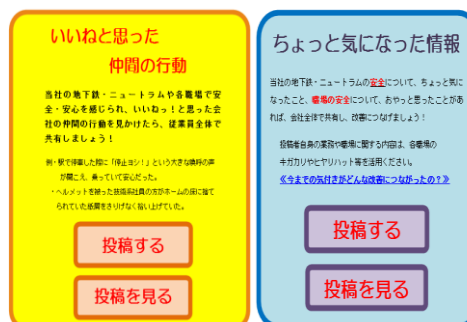
経営トップへの内部監査の実施



各部への内部監査の実施

◎社員の安全意識の醸成とモチベーションアップを図る

社内ポータルに、社員一人ひとりの気づき力を高め、安全を通じた経営参加意識の形成に寄与するための投稿サイト『ちょっと気になった情報』と、社員が「いいね」と思った他社員の行動を社内全体で共有するための投稿サイト『いいねと思った仲間の行動』を設け、社員の安全意識の醸成とモチベーションアップを図っています。また、昨年度は現場最前線の社員が自ら考え行動し、安全・安心の取組みに寄与した事案を、月1回、社内ポータル内で発行する『気づき情報NEWS』の中で成功事例として掲載しました。



社内ポータルの投稿サイト画面

◎経営層と現場社員との対話・コミュニケーション

経営トップ、安全統括管理者をはじめとする経営層が、直接現場の社員とコミュニケーションを取ることで、共通した安全意識の向上に努めています。

社長現場巡視の実施

経営トップ自らが現場最前線への巡視を実施し、頑張る社員の声を聴き、激励しています。また、その様子や声を、社内ポータルを通して、経営者情報発信として社員に届けています。



鉄道テロを想定した課題検証訓練



線路（レール）交換夜間作業



20211129_線路交換夜間作業を見学して

11月12日に、技術部の千日前保線事務所にて線路交換の夜間作業を見学しました。

今回の線路交換作業は、通常の線路交換とは異なり、普段、経験を積むことができない若手社員を中心としたチームで作業を行い、その工程をベテラン社員が確認し、時には指導するという「若手の育成」、言い換えれば、「技術の伝承」という明確な意図をもった作業でもありました。

若手チームの皆さんはこの日に向けて何度も打ち合わせし、入念に準備をしてこられたのですが、実際に自らの手を動かすとなると思うようにはいかず、苦戦する姿が見られました。その際には、すかさずベテラン社員から適切なアドバイスが入り、予定していた時間内に交換作業が終了しました。若手社員の技術を学び取ろうとする真剣な姿、そして、ベテラン社員の何としても技術を伝えようとする真摯な姿に、日々の安全・安心を支えている現場の頼もしさを感じました。少しも手を抜くことができない保線作業において、これまでに蓄積・伝承されてきた技術の積み重ねがいかに大事かを感じた時間でした。

このように伝承されてきた技術は、既に神戸市交通局の保線現場でも活かされているとのこと。是非とも今後は、西日本全域、いや全国の地下鉄の保線現場に活躍の場を広げて行っていただきたいと思います。

保線事務所長からは、経験年数に応じて作業を分担するといったやり方では年齢構成に偏りがある当社では技術伝承が上手くなくならないため、あえて若手社員だけで線路交換の一連を企画し、作業させる実践型の研修を取り入れることで課題解決を試みているという説明を受けました。年齢構成の偏りは現場視察の際によく出る課題です。根本的な解決には時間がかかるものの、このように創意工夫して課題解決に取り組んでいる姿こそが当社の現場力の強さであると感じます。

今回、「若手の育成と技術の伝承」のやり方のひとつを見せていただきました。成長とは学び続けることです。これは若手に限りません。

常に良くしていこうという意欲と実践が人を成長させていきます。指導するベテランの人達も新しいことを学んでいることと思います。

今回の見学会に携わっていただいた方々に感謝申し上げますとともに、懸命に一心不乱に取り組む姿から、私こそが学ぶことが多かったと感じた夜中の作業見学会でした。

経営者情報発信

安全統括管理者等の現場巡視の実施

安全統括管理者をはじめとする現場第一線の活動を支える立場の経営層（部長級以上）が、各種運動期間や自主監査などの機会を捉え、部門を越えた現場巡視と意見交換会を実施しています。

また、現場と本社間の仕事の意義や価値観を共有し一体感を醸成する取り組みとして、コーポレート部門の経営層や社員が職場巡視を実施し、その様子を「職場訪問レポート」として社内ポータルを通して社員に届けています。



安全統括管理者の現場巡視、意見交換



職場訪問レポート Vol.13 2021年12月16日 丸ノ内線安全監理本部

～経営層・コーポレート社員が現場を知る取組み～

経営層は本社コーポレート部門の社員が、鉄道事業を支える現場の活動や取組みを学ぶとともに、本社と現場での仕事の意義や価値観を共有し、一体感を醸成する取り組みを行っています。2021年11月に行われた現場の取組みの概要と参加者の感想をご紹介します。

開催日時	開催場所	参加者
11月26日	東横線千日前駅の保線所	デジタルマーケティング事業部 三嶋さん、経営企画部 上田さん、野村さん
11月30日	大塚駅保線所	デジタルマーケティング事業部 矢野さん、企画・総務部 岡田さん、経営企画部 三嶋さん

～現場訪問の様子～

【デジタルマーケティング事業部 三嶋さん】
現場ではあるが東西を繰り返してラインしていくことでも現場とつながりを感じました。あえてお話を聞くことで現場の状況がよりリアルに伝わっているのを感じました。

【経営企画部 上田さん】
現場の状況がよりリアルに伝わっているのを感じました。現場には協力者を求める機会があること、駅員さんごとの違いなど、平素からお話を聞いていることが現場を知ることに繋がりました。

【デジタルマーケティング事業部 矢野さん】
現場ではあるが東西を繰り返してラインしていくことでも現場とつながりを感じました。あえてお話を聞くことで現場の状況がよりリアルに伝わっているのを感じました。

【企画・総務部 岡田さん】
現場の状況がよりリアルに伝わっているのを感じました。現場には協力者を求める機会があること、駅員さんごとの違いなど、平素からお話を聞いていることが現場を知ることに繋がりました。

【経営企画部 三嶋さん】
今回、現場訪問として現場の中でお話を伺う中で実感されたという点で、実際に現場を見た時の状況は、想像よりもリアルに感じました。

職場訪問レポート